



平成 22 年 5 月 13 日

各 位

会 社 名 株式会社アイディーユー
代 表 者 名 代表取締役社長 池添 吉則
(コード番号：8922 東証マザーズ)
問 合 せ 先 管理本部副本部長 奥田 広志
電 話 番 号 (06) 4391-2001 (代表)

特別損失の計上及び業績修正に関するお知らせ

当社は、平成 22 年 3 月期決算期（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）において、下記のとおり特別損失を計上するとともに、平成 21 年 11 月 12 日に公表いたしました平成 22 年 3 月期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上及びその内容について

(1) 減損損失

当社は、ソフトウェア等の無形固定資産の全てについて、その収益性及び経年による陳腐化を検証した結果、平成 22 年 3 月期において、固定資産の減損会計基準に照らし、ソフトウェア 166 百万円、コンテンツ 64 百万円の減損損失を計上いたしました。

(2) その他

当社は、平成 22 年 3 月期決算において、借入金に関連する金利スワップに対して同期末現在の時価評価にて 65 百万円の評価損を計上いたしました。

2. 業績予想の修正について

(1) 平成 22 年 3 月期連結業績予想値の修正

(百万円未満切捨て)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想(A)	2,530	△ 988	△1,378	△1,800	△ 7,078.76
今回予想(B)	1,628	△1,879	△2,224	△2,458	△ 8,270.51
増減額(B-A)	△ 902	△ 891	△ 846	△ 658	—
増減率(%)	△ 35.6	—	—	—	—
前期実績	5,249	△1,865	△ 2,234	△3,452	△13,923.23

(2) 修正の理由

当連結会計期間におけるわが国経済は、その一部に輸出や生産の回復が見られたものの個人消費や雇用関係等の先行き不透明感から本格的な回復には至っておらず、依然先行き不透明な状況が継続しております。このような環境の下、当社は、「事業の選択と集中」及び「財務基盤の健全化と強化」を喫緊の経営課題とし、今後の収益基盤の柱となるシステム開発、固定費等のコスト削減を実施することによる安定収益確保の実現に向けた体制強化に注力してまいりました。当連結会計期間における業績予想数値につきましては、固定費等の削減により売上原価を始めとする費用については計画通りであったものの、上記の厳しい事業環境により第 2 四半期から計画していた不動産流動化コンサルティング業務に関する売上の減少及び現在開発中のシステムにおける顕著な収益化は来期以降となったことにより、営業利益、経常利益、当期純利益が前回予想を下回る見込みとなりました。

※ 上記予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により、予想と異なる場合があります。

以上